
2015年度 第1四半期

決算説明資料



2015年 8月7日

2015年度 第1四半期 連結業績



(単位：億円)

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比増減 (伸び率)	
売上高	1,570	1,543	▲ 27	(98.3%)
営業利益	76	77	+ 1	(101.1%)
(営業外損益)	8	6	▲ 2	-
経常利益	84	83	▲ 1	(98.3%)
(特別損益)	16	27	+ 11	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	56	76	+ 20	(136.4%)
自己資本	2,069	2,323	+ 254	(112.3%)
総資産	5,190	5,595	+ 405	(107.8%)
経常利益率	5.4%	5.4%		
ROE	2.7%	3.3%		
EPS	28.61円	38.98円		
自己資本比率	39.9%	41.5%		
ネットD/Eレシオ	0.66	0.58		

2015年度 第1四半期 事業セグメント別売上高・経常利益



(単位：億円)

		2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高・利益増減要因
産業ガス関連	売上高	471	471	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の高炉減産の影響で、高炉向けオンサイトが減少 ●化学、エレクトロニクス、造船等で堅調な生産活動が続くも、産業ガスの数量は、オンサイト減産の影響により、前年を下回る ●製造業の設備投資が上向き、ガス供給設備工事が増加
	経常利益	28	31	111.3%	
ケミカル関連	売上高	254	218	85.9%	<ul style="list-style-type: none"> ●コークス炉ガスの価格ならびに粗ベンゼンの販売価格が低下 ●タール蒸留事業は市況悪化により極めて厳しい状況 ●川崎化成工業 新規連結
	経常利益	6	2	39.3%	
医療関連	売上高	251	274	109.1%	<ul style="list-style-type: none"> ●医療用酸素が新規病院獲得等による数量増加 ●設備工事、医療機器、在宅医療は、成長施策推移で堅調 ●医療サービスは滅菌センター開設コストが一時的に増加、メンテナンスサービス体制づくりに注力
	経常利益	10	11	109.2%	
エネルギー関連	売上高	116	103	89.4%	<ul style="list-style-type: none"> ●原油価格下落に伴い、LPガス・灯油ともに販売単価減少 ●LPガスは燃転や大口顧客獲得により、販売数量増加
	経常利益	7	6	99.6%	
農業・食品関連	売上高	194	200	103.3%	<ul style="list-style-type: none"> ●ハム・デリカはコストアップを値上げや拡販でカバー ●飲料事業は、増税影響が解消し、野菜系飲料中心に順調 ●農産・加工事業は、北海道産青果を中心に販売堅調
	経常利益	6	8	141.1%	
その他	売上高	285	276	96.9%	<ul style="list-style-type: none"> ●塩事業は、独自製品の販売に注力し堅調 ●マグネシア事業は高級電磁鋼板用ならびにヒーター用マグネシア増販 ●物流事業は荷扱い量増加、燃料コスト減少で堅調
	経常利益	21	21	99.4%	
(調整額)	経常利益	7	3	-	-
合計	売上高	1,570	1,543	98.3%	-
	経常利益	84	83	98.3%	

2015年度 第1四半期 事業セグメント別業績内訳（1）

<産業ガス関連セグメント>

（単位：億円）

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
ガス	320	299	93%	<ul style="list-style-type: none"> ●高炉オンサイト酸素供給が減少し、エアセパガス全体数量減少 ●化学、エレクトロニクス、造船等向けエアセパガスは前年並 ●半導体向けバルクガスは堅調
機器・工事	68	78	116%	<ul style="list-style-type: none"> ●ガス供給設備工事が増加
情報電子材料	83	93	113%	<ul style="list-style-type: none"> ●半導体・電子材料分野で回復基調 ●セルコ 新規連結
計	471	471	100%	

<ケミカル関連セグメント>

（単位：億円）

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
コールケミカル	229	156	68%	<ul style="list-style-type: none"> ●ガス精製は、コークス炉ガス価格が低下 ●粗ベンゼンが原油価格下落等により数量、価格とも低下
ファインケミカル	25	19	79%	<ul style="list-style-type: none"> ●精密化学品、機能化学品とも、販売期ずれにより減収
川崎化成工業	-	42	-	<ul style="list-style-type: none"> ●新規連結、農薬関係の販売堅調
計	254	218	86%	-
シーケム(持分益)	▲0.7	▲ 3.9	-	<ul style="list-style-type: none"> ●ニードルコークスは原油価格下落と市況悪化

2015年度 第1四半期 事業セグメント別業績内訳（2）

<医療関連セグメント>

（単位：億円）

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
医療ガス	23	23	99%	●医療用酸素は、新規病院獲得等により数量増加
設備	40	47	117%	●病院の手術室・ICUへの投資意欲は高く、手術室関連機器販売強化 ●大型病院をターゲットとした戦略的営業の成果
医療サービス	113	111	98%	●SPDは販売減少、受託滅菌は販売増加 ●エムシーサービス 新規連結
医療機器	7	8	115%	●周産期関連の販売増加 ●ガス性医薬品アイノフローが順調に増加
在宅医療	22	23	105%	●在宅酸素濃縮器の新製品採用拡大で、レンタル数増加、CPAP（睡眠時無呼吸症候群治療器）台数増加
その他	47	63	136%	●歯科領域は概ね堅調 ●半田 新規連結
計	251	274	109%	—

<エネルギー関連セグメント>

（単位：億円）

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
LPガス	107	95	88%	●LPガス、灯油とも数量増加なるも、原油価格下落で販売単価が低下
天然ガス関連ほか	8	9	102%	●LNGタンクローリー販売堅調
計	116	103	89%	—

2015年度 第1四半期 事業セグメント別業績内訳（3）

<農業・食品関連セグメント>

（単位：億円）

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
食 品 関 連	39	40	104%	●主力の生ハム、ブロッコリー等の拡販により概ね堅調
農 業 関 連	155	160	103%	●飲料事業は、増税影響が解消し、野菜系飲料を中心に販売増加 ●農産・加工事業は、北海道産青果を中心に販売堅調 ●林屋 新規連結
計	194	200	103%	—

<その他セグメント>

（単位：億円）

	2014.1Q	2015.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
日 本 海 水	51	54	107%	●塩事業が数量減少、環境事業が吸着剤などの環境製品の販売減少 ●赤穂発電稼働開始
タ テ ホ 化 学	20	25	126%	●高級電磁鋼板用ならびにヒーター用マグネシア販売増加
海 水	70	79	112%	—
物 流	95	94	99%	●食品物流の回復、一般物流の荷扱い量増加
そ の 他	120	103	86%	●国内景気回復に伴いリング販売増加、エアゾルは家庭用品向け販売増加 ●グループ内取引の調整
計	285	276	97%	—

本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。

そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。